

私の汚れなき心の奉獻者たちへの贈り物



(40年間秘密にされていた、聖母マリア様からの賜物)

私の汚れなき心の奉獻者たちへの贈り物

(40年間秘密にされていた、聖母マリア様からの賜物)

観想クララ会の一修道女、シスター・マリア・キアラ・スカラベッリ (1912-1994) は、聖母マリアから、二つの射袴の言葉とともに、それを刻んだメダイを作って、マリアの汚れなき御心に自身を奉獻した人たちへの贈り物にするようにという使命を受けた。彼女自身が語る手記の中から、この事実に関する部分だけを抜粋してみよう。

1950年10月7日：第二のご出現

私は独りで、ご聖櫃の前で夜間聖体礼拝をしていました。それは、11時を過ぎて間もない時でした。私は祈っていました (....)。

すると驚きと喜びとともに、祭壇の右側に、一つの大きな光が現れるのを見ました。一瞬後、5月15日に私に語りかけられた、あの美しい婦人が現れました。その方は、優しく微笑みながら、私のほうに近づいて来られました。あの時と同じご様子で、同じ服を召され、左手には心臓を、右手には、清く白いおん足の部分から約10センチほどのところまで十字架が下がっている、黄金色の珠のついたロザリオを持っておられました。

さらにそのお姿全体を半円形に囲んだ、金色で書かれた言葉を読むことができました。

「信頼と希望の御母マリアよ、

あなた (御身) により頼み、我が身を委ねます (奉る)」

ご婦人は、表現するための言葉を見つけることができないほどの優しさと微笑をもって、私を眺めておられました。そしておっしゃいました。

「私の小さな娘よ、私はあなたに一つの使命を委ねるために来ました！ 私の心の喜びである、あの私の愛する子供たちに一つの贈り物をするために、あなたを必要としています。なぜなら彼らは私を愛しており、イエズス様のお望みによって私がファティマで頼んだ、私の汚れない心への奉獻を行ない、その実践を生きているからです。

それで私は、母としての私の心の感謝を表わすために、彼らに一つのしるし、一つの贈り物をしたいのです。

それはまた、私が優しく愛しているのに、私の愛に答えない多くの子供たちにたいする呼びかけでもあります。私は彼らに言います。『私の小さな子供たち、いらっしやい。私の心にいらっしやい。私は、あなた達を愛しておられるイエズス様の元につれて行くために、皆を待っています！ 主のうちにのみ、あなた達が非常に捜し求めている平和、喜び、そして幸せを見いだすことができるでしょう！』と。

更に申します。「祈りなさい。神の子供、まことの兄弟として愛し合いなさい。またあなた方の母とイエズス様が皆を愛しているような愛をもって、お互いに愛し合いなさい！

主は、私の子供たち皆を改心、祈り、償いに招くようにという使命を、私の汚れない心に委託なさいました。祈ってください。祈ってください！ もし祈らないなら、改心することはできません。私があなた達を愛しているように、あなた達もお互いに愛し合ってください。

苦痛とともに私は申します。多くの人たち、本当に多くの人たちが、祈らず、愛しません。小さな娘よ、あなたが今見ているように私の姿を描いた、一つのメダイを作らせるという使命をあなたに委ねます。

それは、私の汚れない心からの、一つの愛の贈り物です。では、メダイの裏側を見てごらんください。

すると、聖母のお姿のそばに、茨の冠によってしっかりと一致した、むしろほとんどつながれたとでも言うべき、イエズスとマリアの聖なる心臓が現れるのを見ました。イエズスの聖心には小さな十字架が立ち、聖母のそれは、一本の剣によって貫かれていました。

二つのみ心の下には、『アヴェ・マリア』を意味する A と M の文字が絡み合っていました。二つの心臓の両方を、すべての靈魂の救いのために燃え上がる愛のシンボルとしての炎が取り巻いていました。全体の回りには、金色の文字で、『イエズス、マリア、あなたを愛します（御身を愛し奉る）。すべての靈魂を救ってください（救い給え）』という言葉が書かれていました。

メダイの裏側を私にお見せになったあとで、聖母が言われました。

「愛する私の子供たちよ、あなた達に奨励します。どうか度々心から、『イエズス、マリア、あなたを愛します。すべての靈魂を救ってください』という祈願を唱えてください。それは、イエズスの聖心と私の汚れない心を慰める、一つの愛撫となるでしょう。もしこの祈願が心から、信仰をもって唱えられるならば、そのたびごとに、それは、多くの冒瀆を

償うものとなるでしょう。この愛の射撃の各々が、一つの靈魂を救うでしょう。

地上の生活の各瞬間を最高に価値づけるように、愛があなた達を助けてくれますように。愛が強ければ強いほど、あなた達の人生は、より肥沃なものとなります。愛し合ってください。愛し合ってください！ 天上のことを求めなさい！ ここ地上では、すべてのことが過ぎ去ります。ただ愛だけが、永遠に残るのです！

あなた達は愛によって裁かれるのです。

まことに愛した人にとって、裁きはありません。愛のためと、愛のうちにのみ生きた子供には、良き御父の抱擁があるだけです！

あなた達の母の言葉を聞いてください！ 私があなた達に話し、あなた達を激励するのは、皆を愛しているからで、皆にあの天上、あの天国で永遠に幸せになってほしいからなのです！ 皆を待っていておいでになるイエズス様と御父のところに、あなた達をつれて行きたいのです！

自身の奉獻を証ししながら、私の汚れない心のこの贈り物を身につける人たち皆に、私は約束します。私は彼らを祝福し、手を取って導き、イエズスのみ前に紹介するために、私の最愛の子供たちとして私の心の中に保ってつれて行きましょう。臨終の際には、敵であるサタンが彼らを害することができないように私が助け、あの天国で私とともに生き、イエズス様が、彼らに永遠の報酬を与えてくださるでしょう。」

私は、自分の悲惨と貧しさを知っていますので、畏れに捕われてお尋ねしました。

「お母様、あなたは私が無であり、哀れな愚か者であることをご存じです。どうしたらあなたのお言葉を伝え、あなたの愛を言い表すことができるでしょうか？」

「小さな子よ、繰り返します。恐れることはありません。まさにあなたが無であるからこそ、あなたを選んだのです。そうすれば、あなたがすることはあなたのわざではなく、あなたの中で働くのは私であるということを、皆が理解するからです。(.....)

神の代理者と話しなさい。聖霊があなたを導かれるでしょう。もしこのことによってあなたが非常に苦しまなければならないとしても、すべての靈魂の救いのために、すべてを愛をもって行ないなさい！.... 悪魔は、この計画によって、神様と私の汚れない心が栄光を受けますので、それを妨げるためにあらゆることをするでしょうが、恐れることはありません。私とあなたと共におり、最後に私が勝つでしょう！」

それから、すべての靈魂に向かって言われました。

「私の小さな子供たち、私は、あなた達と私の心を固く結びつける金のくさり、私のロザリオを与えます。祈りなさい。ロザリオをもって祈りなさい。しっかりとそれを保ち、信仰をもって、心をこめて祈りなさい。それは、人類の救いとなるでしょう！ これこそ、あなた達が私のものであるというしるしになるでしょう！」

サタンはこのことを非常に恐れているので、靈魂を失わせるためなら、あらゆることをするでしょう。しかしあなた達の母である私が、靈魂を救うために、すべてを行ないます。なぜならば、それが主の御旨だからです。

しかし私は、あなた達の助けを必要としています！ 祈ってください。犠牲と償いを捧げてください。愛し合いなさい。私があなただを愛しているように、愛し合いなさい。ただこうすることによってのみ、**靈魂は救われるでしょう**。

それから、私に向かって続けられました。

「もう一度繰り返します。小さな娘のあなたは、恐れてはいけません。私があなたと共にいます。聖霊が、あなたの中で話してくださるでしょう。信頼しなさい。すべては愛のために、ただ愛のために！」

そして、私の頭に片手を置かれると優しくおっしゃいました。「私はあなたを祝福し、試練のときに支えるために、あなたと共に留まります」。

そして、微笑みながら地面から上昇してゆかれると、お消えになりましたが、光はしばらくのあいだ、まだ残っていました。それから、私の心の中に非常な平和を残して、すべてが終わりました。

根拠ある信憑性

神秘的性質を帯びたこのような事実については、肯定的にも否定的にも、偏見をもった態度ではなく、しかし責任をもって判断されなければならない。聖書の事実の中に度々明らかに認められるように、神的行為の特徴は、いつも人間的判断のうちにおさまるべきものである、と主張することはできない。

今回の場合、語られている体験についての根拠を判断するための貴重な材料は、それを生きた人物自身から提供される。

先ず最初に、注意深く研究されたこの体験談は、我々に真面目な信憑性を感じさせるものであると言えよう。

特に、霊的に高い段階に生きていたこのクララ会の修道女の存在は、このような場合に要求される、慎重を期することを当然とする態度のもとに立ったうえでも、完全な意味で、あらゆる欺瞞の疑いを晴らしてくれる。

この事実が、40年後という長い年月を経たあとで光のもとに出たということは、意味のないことではない。この事実が生じたと同時に、非常に劇的な方法をもって沈黙を強制された彼女は、自分自身からは何のイニシアティブも取ることなしに、聖母が予言なさった時期を、信仰をもって待ったのであった。

ある意味でもっと自由に行動することができる修道院長の役割を彼女が果たした時期に、その特権を利用することもできたであろう。彼女が非常に尊敬し、度々そのもとに忠告を求めていた、一人の権威ある修道司祭の協力を得ることもできたに違いない。

このようなメダイを鑄造させるために尽力した司祭自身、数年前から彼女の霊的歩みを指導し、その神秘的経験について多くのことを打ち明けられたにもかかわらず、彼女の胸中にこのような秘密が保たれていたとは、まったく想像することもなかった。

一種の不思議さえ直感することができる一つの仲介を通して、彼女が長い間待ち望んでいた一つの質問を司祭が彼女にしたので、やっとこの恩恵と理解しがたい苦しみの出来事が光の元に明らかにされたのであった。

母親からの贈り物としてのメダイ

聖母が鑄造するようにと願われたメダイは、一つの賜物である。「私が愛し、私も彼らから愛されている私の心の秘蔵っ子たちに、母親としての心の感謝を示すために、私は一つのしるし、一つの愛の贈り物をしたいのです」。

それは、聖母の御心と同一化した賜物である。「どれほど私が彼らを愛しているかを理解してくれるように、彼らに私の心を与えるために、私は来ます...」。聖母マリアは、ご自身の愛の表現として、その御心を私たちに与えられる。

聖母のお言葉によると、さらにそれは我々が捧げた奉獻行為を、言行一致と忠実をもって生きるようにという呼びかけでもある。事実、しるしとしての価値をもつこのメダイを身につけながら、内的な躊躇と戦いなしに、それが意味することと反対の生活を送ることは不可能なはずである。

聖母にまつわる教会の出来事を、特別のしるしを介して確認するということは、聖母マリアのなさり方のように思われる。教会が、聖母マリアの汚れなきおん宿りという信仰の真理をドグマとして宣言した(ピオ九世；1854年)あとに、ちょうどそれを承認するかのように、1858年、ルルドにおける汚れなきマリアのご出現があった。

聖カタリーナ・ラブレへの出現を通して(1830年11月27日)、聖母マリアが一つのメダイ(不思議のメダイ)を鑄造するように願われたのは、もしかしたら、マリアの汚れなきおん宿りの宣言を勇気づけるために、天から与えられた確認ではなかっただろうか？

もしそうだとしたら、聖母の絶え間ない願いを聞き入れて、

教会が世界全体をマリアの汚れなき御心に奉献したあとに、聖母がその特別な喜びを示すしるしを私たちに与えたいと望まれた、と解釈することはできないものだろうか？

一 つ の 質 問

さて、この出来事の歴史についての信憑性を受け入れるとしても、世界中の多くのキリスト信者のあいだでこれほど根づき、これも聖母マリアから特別に願われた、「不思議のおメダイ」への信心に加えて、もう一つのメダイを作ることは、一種の混乱を招くことになりはしないだろうか？

それから、この二つのメダイをめぐって、聖母マリアご自身を競争相手のようにみなさせる、グロテスクな危険を犯すのではないか？

この困難な仮定は、しかし単に表面的なものにしかすぎない。不思議のおメダイの価値と、信徒たちの信心におけるその重要性については、決して今さら議論すべきこととはならない。ここで、聖母マリアへの奉献を生きるための「賜物と呼びかけ」について語るこのメダイは、ただマリアの御心に自身を奉献した人々のためにとってのみ、その意味があるからである。

聖母に自身を奉献することなくこのメダイを身につけることは、ちょうどある連盟などに属していないにもかかわらず、そのバッジをつけて歩くようなものである。一つのメダイが、他のメダイに取って代わることはできない。ちょうど、結婚指輪の例を考えるとよいだろう。

つまりこのメダイは、お互いの受け入れ、そして「奉献」を通して示された、御母マリアの子としての所属のしるしで

あると考えることができるだろう。

シンボリズム

短い言葉で、このメダイのシンボリズムについての意味を深めることは不可能であるが、メダイの裏側にある、茨の冠によって固く結ばれ、共に炎で囲まれた二つの心は、聖ヨハネ・エウデスのあと、かなり普及されている象徴を暗示するものである。

カトリックの信心は度々、「子と母」の愛を結びつける。ただ一つの心としてのイエズスとマリアの一致については、すでに聖ヨハネ・エウデスによって教えられた。それは救いの唯一の犠牲、すなわち、マリアの汚れなき御心のうちに完全に迎えられ、生きられた、キリストの犠牲である。

『イエズス、マリア、あなたを愛します(御身を愛し奉る)。

すべての靈魂を救ってください(救い給え)』

これは、憐れみによって私たちを救ってくださった方への、連帯的愛の一致を宣言する祈願である。またこの射構は、それを唱える人にとって、同時に二人の方を抱擁する愛の表現であるが、それは単にその気持ちの表現を意味するだけでなく、それ以上に、この二人の方との愛の関係に仲間入りすることになる。つまり、「イエズスよ、マリアの愛をもってあなたを愛します。マリアよ、イエズスの愛をもってあなたを愛します」ということである。

『信頼と希望の御母マリアよ、

あなた(御身)により頼み、我が身を委ねます(奉る)』

聖母マリアのお姿を取り囲むように記されたこの言葉は、

各自の聖母への奉獻がもつ本質的な要素を含んでいる。さらに「あなたにより頼み、我が身を委ねます」という表現は、御母マリアのうちに私たちが根を下ろすことを意味しており、それによって、聖母に起こったように信頼深く、尽きない信仰、唯一の救い主キリストにおける完全な委託が可能となるのである。そして、ただ主において主を通し、そして主と共に、御父への私たちの委託が可能となる。

ま と め

1) マリアの御心への奉獻とは、今世紀における特殊な恩恵の出来事を構成するものである。それは、我々のうちにキリストのいのちを完全に受け入れるという意図に基づいて行なわれる、マリアへの従属関係によって成り立つものである。

2) この奉獻は、各信者の生活の中で責任をもって受け入れられ、生きられるべきマリアの普遍的母性のうちに、その基礎を据えている。ゆえにこの奉獻は親子関係の本質をもっており、このことはヨハネ福音書19章：26-27節に、その聖書的基礎をおいているものである。

(※『イエズスは、その母と、愛する弟子とがそばに立っているのをごらんになり、母に、「婦人よ、これがあなたの子です」とおおせられ、また、弟子には「これがあなたの母です」とおおせられた。』)

従って、メダイに関しては、次のように言うことができるであろう。

1) メダイは、聖母マリアへの奉獻行為の重要性を思い出させる「しるし」である。それは思い出と記念の価値を有し、言行一致と証明への呼びかけである。

2) メダイは、一つの「賜物」である。なぜなら聖母の側からの、私たちの奉献の受諾を表明するからである。

また、聖母ご自身が願われたことに従って人類を奉献したことにたいして、御母マリアが教会に与えられる感謝のしるしでもある。

あ　と　が　き

この小文は、1950-1953年に起こったが、ほとんど40年間のあいだ沈黙を強いられた、或る一つの出来事について知らせることを目的としたものである。しかし遂に、聖母マリアが約束されたように、約10年ほど前から、一般に知られるようになった。

この出来事の主人公は、イタリアのピアチェンツァ (Piacenza)、ティドーネ (Tidone) の谷に位置する小村ジェネプレート (Genepreto) というところで、1912年3月29日に生まれた観想クララ会の、キアラ・スカラベッリと呼ばれる一人の修道女である。彼女は、1994年1月29日、その死去のほんの数ヶ月前に完成した新しい修道院で、その一生を閉じた。

しかし約63年間の彼女の修道生活は、ヴェニススのローマ広場にあるサンタ・キアラ修道院で過ごされ、ここに語られた特殊な出来事の実実は、この修道院で起こったものである。

この謙遜なクララ会修道女は、一つの異例な出来事を日常性の中に隠す努力をしたので、62年以上もの間、同じ修道院内で一緒に過ごした仲間の修道女達すら、彼女の中に何か

変わったことが隠されていることを疑うことすらないほど、英雄性を日常性で包む生活を送った人であった。

彼女達はいまだに、自分たちとまったく同じように見えていたあの修道生活の仲間の中に、これほど特殊な恩恵の神秘が隠されていたことを、納得することができないほどである。このことを理解するには、シスター・キアラが、もっとも英雄的な彼女のモットーである「誰も気がつきませんように...。あなたとお母様のみが知っておられますように」、という言葉に真面目に取る必要があるだろう。

1950年、彼女が夜間聖体礼拝をしていたとき(彼女は、毎晩11時から午前2時までのあいだ、3時間にわたる聖体礼拝の信心を、60年間以上にわたって実行した)、聖母マリアが現れて、すでに語ったような一つの使命を彼女に与えられた。この神秘的体験は、ファティマにおける出現で聖母が教会にたいしてされた、人類をご自身の汚れなき御心に奉獻するようにという願いと関連している。

この貧しい修道女と、彼女が単純に「お母様」と呼んでいた聖母マリアとの関係における、その強さと豊かさについて簡単に説明することは不可能であるが、それは聖母マリアを自身の母として、限定をつけることなく受け入れることであり、少女時代の最初の頃から、聖母マリアの御心を自分の絶え間ない住処としたほどであった。

シスター・キアラにとっては、「母マリアの御心の中に存在する」ということは、聖母ご自身の信仰、委託、神の御旨への従順などのうちに自分の生き方を受肉させて、聖母の御

心の中にあったこれらの徳を、唯一及び絶対的に生きることがを意味していた。

シスター・キアラは、おとめマリアの霊に動かされ、純粹な愛に促されて、主イエズスの杯を飲み干すことができるように、それを一つの恵みとみなして、「私は、すべてにおいて最後の者であることを、しかし愛においては最初の者となれますように」と、執拗に願っていた。

また、聖母のご生涯の模範を真似て、いけにえの靈魂として自分のいのちをすべての靈魂の救いのために、キリストの唯一の贖罪のわざに一致させることができるように願った。

すべては、カルワリオ山上での母マリアへの普遍的母性の宣言、「女よ、ここにあなたの子がいます...」、というキリストのお言葉によって果たされたのであったが、聖母マリアは、この言い尽くしがたい母の愛を、その小さな娘の心の中に反映させたいと思われて、「すべて、すべての人が救われ、たった一人といえども、私の兄弟である罪人の靈魂が失われるようなことはありませんように」という祈りをキアラが繰り返すことによって、すべての靈魂の救いに協力するように頼まれたが、それは、シスター・キアラの靈魂の呼吸とでも言えるほどのものとなったのであった。

以上が、彼女自身が語った物語によって知ることができた、聖母の汚れなき御心に自身を奉獻し、それを生きている子供たちに、贈り物として与えたいと天の御母が願われたメダイに関する出来事である。

見守りの慈愛の心で、



シスター・マリア・キアラ・スカラベッリ (1912-1994)

☆

☆

☆

おとめマリアから、聖母マリアの御心への奉獻者
たちへの賜物として、二つの祈禱文を刻んだメダ
イを鑄造する使命を受けた観想クララ会の修道女

(甲) ママキ・オーマス

聖母マリアへの奉獻の折り

汚れなきマリアの御心よ、私.....は、生命も死も、永遠に至るまで、私のすべてをあなたに奉獻いたします。私は小さく貧しい者ですので、あなたなしでは何もできません。ですから、どうか私を助けに来てください。

あなたにより頼み、私自身をお委ねいたします。

私は、あなたの所有物です。どうかつねに私を導き、守り、あなたと私のイエズス様をお悲しませするような、あらゆる危険からお守りください。

私は、あなたのおん腕の中に身を投げます。おん胸に私を抱きしめ、その御心の中に隠して下さい。

あなたが愛しておられるように、私もイエズス様をお愛しすることができますように、あなたの御心が、主との一致における私の永久の住まいとなりますように。

また、あなたのマントで私を包み、三位一体の栄光とすべての靈魂の救いのために、愛のうちに生き、そして死ぬことができますように、私の心に聖霊を満たしてください。

アーメン。

主イエズスの聖心よ、マリアの汚れなき御心を通して、すべての心にあなたの愛の御国が到来しますように。

(シスター・キアラ作)

聖母からの贈り物のメダイ

メダイの表



信頼と希望の御母マリアよ、
あなた(御身)により頼み、わが身を委ねます(奉る)。

メダイの裏



イエズス、マリア、あなたを愛します(御身を愛し奉る)。
すべての靈魂を救ってください(救い給え)。

✠

✠

✠

私たちのこの祈りが、シスター・コンソレータの
『絶え間ない愛の祈り』となり、シスター・キアラの
『靈魂の呼吸』ともなり、多くの靈魂が救われますように。